

4 感染症重大事案対策事業

－次世代シーケンサー(NGS)を活用した検査の実施－

令和元年に引き続き、重症症例であり原因の特定が困難な急性脳炎・脳症及び無菌性髄膜炎やまん延のおそれのある重症感染症における原因病原体の検出率の向上と検査の効率化、医療に役立つ質の高い情報提供のため、NGSを活用した検査を実施した。令和2年度は10症例35検体(急性脳炎2症例(8検体)、無菌性髄膜炎5症例(18検体)、その他の重症症例3症例(9検体))を検査した(令和元年度は18症例66検体(急性脳症5症例(20検体)、無菌性髄膜炎11症例(42検体)、その他の重症症例2症例(4検体))を検査)。

また、例年実施していた埼玉県次世代シーケンサー解析結果評価委員会については、新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、実施を見送った。

なお、本事業実施上で国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センターとのNGS活用の密接な連携関係が構築されていた事により、新型コロナウイルスのゲノム解析においても早期にウイルス変異状況の把握に役立てた。